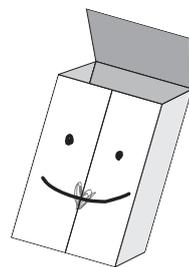


の宝箱

私



『私アレンジメント』

山田由美子

私は趣味で字を書いたり、絵を描いたりしています。自分の気持ちや思い等を何らかの形として表現したいからです。以前には、絵や字以外の物でオリジナルTシャツを作ったり、廃材で机を作ったりしてきました。

去年の二月からは、新たにお花教室に通い始めました。始めた理由は、以前から花が好きだということ、私が習っている教室では私が抱えているイメージの生け花やフラワーアレンジメントとは少し違った内容を教えているからです。花の色や形にこだわらず、パイナップルやオクラ・カボチャ・ネギや唐辛子などの野菜を使ったりします。生ける器にもこだわらず、平皿やレンガ・紙袋・バケツに針金や段ボール・毛糸・ろうそくなどの物を使ったりし、自由な作品を作る教室なのです。そういった内容が、今までもっていた生け花やお花教室に対するイメージと違い、

今までにはなかった、物や形や色にとらわれない豊かな発想とユニークな表現方法を知りました。自分の生活や考えの中にその新しい発想として取り入れていけたらなあと思っています。

教室に通い始めて一年半以上経過しましたが、時季の花にふれると季節を感じることができ、花の自然の色はとても美しく、見ているだけで癒されます。自然の素晴らしさを実感し、道ばたに咲いている雑草に対しても見る目が変わりました。作品は家族や友人の誕生日やお祝いなどにプレゼントすることが多く、今では弟にプロポーズの時の花束を頼まれて作ったり、弟の結婚式に参加する際の自分の髪飾りを作ったりするようにもなりました。他にも絵や書と花を混ぜたウェルカムボードを頼まれて作ったり、出産祝いに命名掛け軸を作りプレゼントしたりしています。

始めは思いを形に残すことが楽しかったり、作る事が喜びだったりしましたが、最近では渡す時の相手の顔を思い浮かべて、どんな物なら喜んでもらえるかを考えながら作っています。渡した時に喜んでもらえる、自分も嬉しくなります。作る楽しみと渡す時のワクワク感と喜んでもらえる時の満足感と、一つの物からたくさん幸せを感じることができるから、物作りはやめられないです。

(つらら 介護職員)

絵本の世界

「みんなうんち」

五味太郎さく
かがくのとも傑作集

本多 章子

一歳になる娘の本棚には真新しい本が並んでいます。一冊だけ私が小さいときにお気に入り読んでいた古い本があります。一歳の娘に、この本の本当の面白味が分からないのは承知ですが、手持ちの本も少ないので時々一緒に読んでいました。

初めは本をめくること、私の声の調子や、動物を指差してみせることを楽しんでる様子でしたが、次第に、出てくる動物を指差しては「あ！」と言ってみたり、アドリブも含めて読むのをじっと聞いたり、私の仕草を真似したりする



みんなうんちの絵本

ことがみられるようになりまし。描いてあるうんちの絵をつまんでパクつとして、「あっ、食べた！」と驚く声に笑ったり、「おとなもうんち こどももうんち おまるでうんち おむつでうんち」で「うんち」と言っていると、そのうちそのページになると一人で緊張してみせたりすることもあり、私にとっては大笑いの絵本の時間を過ごしています。

私の好きなこの本の二ページ目、《ひとこぶらくだはひとこぶうんち ふたこぶらくだはふたこぶうんち これほうそ》があります。しかし、私が読んで聞かせたいと思っけても、娘はこのページをあっさりとおめくってしまいます。らくだにも興味をしません…が、しつこいのは嫌がられるので、今は今の楽しみ方で過ごしますが、いつか一緒に笑ってこの本を読む日を楽しみにしています。

(リハビリテーション部 作業療法士)

